

# 理学の本棚

## 「気候変動を理学する」

多田 隆治 (地球惑星科学専攻 教授)

07

近年、地球温暖化を初めとする人間活動の気候、環境への影響が顕在化するに連れて、世界や国の資源とエネルギー消費のあり方について、一般市民が待たない選択を迫られる場面が増えてきている。そうした選択を悔いなく行うためには、一人一人が人間活動の気候、環境への影響のメカニズムを理解した上で、提示された選択肢の妥当性を判断する必要がある。しかし、現状では、根拠となる「科学的」証拠の妥当性を判断するに十分な知識が、一般市民に解りやすい形で与えられていない。専門家の説明は正確で客観的だが、難しく理解しづらい。通称科学本の多くは、結論のみを主観的に示し、結論に至った科学的検証過程や他の可能性との客観的比較などは示されていない。

筆者は、そうした現状に危機感をもっ

ていたが、タイミング良く、同様の考えをもった日立環境財団の方からサイエンスカフェへのお誘いがあり、2011年に、計5回に渡って講演した。その時の講演、質疑録を元に書き起こしたのが本書である。参加された聴衆の大部分は理系の大学出身者で、他分野の現役研究者なども居られ、かなりレベルの高い議論がなされたが、専門外の方に背後にある論理も含めて理解していただく事の難しさを改めて痛感させられた。熱意あふれる若手編集者の、素人の視点に立った指摘に助けられつつ、1年近くをかけて何とか原稿を完成させた。

編集部には、「理学する」という言葉が一般人に馴染みがなく、受け入れられないのではないかと危惧もあったようだが、それは杞憂に終わったようだ。「理学する」という言葉に、世の流れに

安易に迎合せず、俯瞰的視点から極力客観的、論理的に説明をしたいという思いを込めたつもりである。大学教養レベルを想定してなるべく数式や化学式を使わず、わかり易く書いたので、専門外の方にも、ぜひご一読いただきたい。



多田隆治 著「気候変動を理学する」みすず書房 (2013年出版) ISBN 978-4-622-07749-7

## 東京大学理学部オープンキャンパス 2014

広報委員会

毎年ご好評をいただいております理学部オープンキャンパスは今年も2日間にわたり開催されます。多くの方々が理学部の活動と魅力を共有することができるよう願っております。みなさまのご来場を心よりお待ちしております。

【日時】2014年8月6日(水) 13:00~16:30 (プレオープン・半日開催)

8月7日(木) 10:00~16:30 (メイン開催日・全日開催)

【場所】東京大学本郷キャンパス 理学部1号館(理学部受付)

【参加】事前登録なしでどなたでも参加することができます。

詳しくは理学部HPをご覧ください。

<http://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/event/open-campus/2014/>

## 東京大学大学院理学系研究科・博士学位取得者一覧

(※)は原著が英文(和訳した題名を掲載)

種別	専攻	申請者名	論文題目
<b>2014年4月21日付学位授与者(1名)</b>			
課程	地惑	土屋 主税	高解像衛星観測データに基づく成層圏大気重力波のクライマトロジー、季節内変動および年々変動の研究(※)
<b>2014年5月19日付学位授与者(5名)</b>			
論文	化学	小島 達央	C <sub>3</sub> 対称パイ共役系の選択的構築法の開発(※)
課程	地惑	望月 貴史	生痕化石の多様化から探るカンブリア紀最前期の動物活動の古生態学的解明(※)
課程	生化	越前佳奈恵	検体由来膠芽腫細胞を用いた膜たんぱく質PCDH10の機能解析
課程	生科	矢田 紗織	哺乳動物 <i>Brn-2/Pou3f2</i> 分子進化と脳の機能に関する研究 - 両生類型 <i>Brn-2</i> ノックインマウスから脳の進化を探る - (※)
課程	生科	佐久間 啓	北西太平洋におけるマユガジ亜科深海魚の進化過程(※)
<b>2014年5月31日付学位授与者(1名)</b>			
課程	生化	岡田 直幸	分裂酵母の微小管結合タンパク質複合体Alp7-Alp14(TACC-TOG)の局在制御機構